

平成26年台湾青森りんご友の会情報交換会概要

- 1 日 時 平成26年12月18日(木) 午後3時～午後5時
- 2 場 所 福華大飯店台北(台北市仁愛路三段160号)
- 3 出席者 台湾側：14社・団体18名、日本側：30名、合計48名
(出席者名簿：別紙)
- 4 内容

(1) あいさつ

①一般社団法人青森県りんご対策協議会 会長 阿保直延



台湾青森りんご友の会情報交換会を開催したところ、お忙しい中を出席していただきお礼申し上げますとともに、平素から青森りんごの販売にご尽力をいただきありがとうございます。2012年の10月にりんご友の会が発足して以来、情報交換会をはじめとして活発な活動がなされてきました。そうした活動の結果、台湾向け青森りんご輸出がかなりの程度回復してきている。この点についても皆さんに心より感謝を申し上げます。

今年の青森りんごは量も十分あり、品質も今までにないくらい良い品質に仕上がっており、加えて円安という経済環境が追い風になっていて、今まで以上に青森りんごの取扱いを増やしてもらいたいと思っている。そのためにも、この会議で皆さんから忌憚のない意見をいただき、そしてわれわれも一つ一つ課題を解決していき、より良い販売環境を作るようにしたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

②全青股份有限公司総経理 陳 清福

阿保会長を始め日本側から来ていただいた参加者並びに台湾の市場からの出席者の皆さん今日は。青森りんごは60年以上前から台湾で流通していて、200

1年の台湾WTO加盟で数量を伸ばしてきています。WTO加盟後多くの関係者との交流が進み、皆さんが台湾を大きな市場と捉えるように実感しています。今年の青森りんごは数量・品質とも良く、加えて円安と販売環境は揃っているが、現在の台湾市場はアメリカ産があふれている状況で、販売はゆっくり進んでいます。

本日は日本と台湾の業者間でよい意見交換をし、お互いに良い販売環境を築いていきたいと考えている。

また、本日は台湾農業委員会からも参加していただいているので、台湾での青森りんご販売に関して何か良い意見をお願いしたい。特に日本産のりんごは安全安心だとPRしてほしい（台湾政府で検査しているので）。



(2) 2014年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

青森りんごの生産状況については、青森県りんご果樹課船木課長から、台湾への輸出拡大に向けた取り組みについては、青森県国際経済課小山課長から、更に台湾における青森りんごの消費宣伝についてりんご対策協議会の高澤事務局長より、それぞれ資料に沿って説明がなされた。



(別紙資料参照)

資料説明に出てくる、販促グッズ（前掛け、ポスター）及び県で作成したDVDが、会議の席上台湾側代表の全青股份有限公司の陳総経理に贈呈された。



（3）情報交換

【情勢報告】

<台湾瓦克國際(股)公司 李 昭志>

台湾の市場状況を報告します。今年の早生系のりんごはトキや早生ふじは販売好調で特にトキは昨年より成長している。なぜかと言うと今年は天候に恵まれ品質が良いから、消費者に受け入れられた。もちろん円安のおかげもある。全体的に青森産のりんごは味がよく問題がない。ただ、アメリカ産のりんごが大量に入荷していて、台湾の冷蔵庫はほとんど満杯だ。売るスピードは入庫のスピードより遅いので冷蔵庫がいっぱいになってしまう。日本産のりんごも在庫がいっぱいある。りんごだけでなく他の輸入果物も販売しづらい。台湾の国産果物も天候に恵まれ味が良く価格も安い。1ヶ月前は最高気温も30度を越していて消費者の購買意欲も活発だったが、12月に入ってから寒波に見舞われて消費が停滞している。消費の動きは天候に左右されるので、現在は動きが低調になっている。

日本のりんごの競争相手はアメリカ産で、去年のアメリカ産は数量が少なく日本が有利だった。今年の早生の時点ではアメリカ産の輸入が始まっていなく、日本と台湾は地理的にも近いので活発に輸入された。しかし、今年アメリカ産は豊作で大玉が生産されているので、アメリカ産との競争は大変だ。しかし、今年唯一良いことはやはり円安であること。われわれはだいぶ助かる。



<台北市青果進口承銷協會 洪 嘉佑>

市場での販売はスムーズに行っている。今年のリんごはトキからスタートしているが、トキの箱を開いた時点で黒く変色しているものが見られている。これは販売側からすると苦勞することだ。日本から出荷する時点で対応が可能であるなら是非対処してほしい。毎年、旧暦のお正月前は日本産がメインになるので、うまく販売できるようになってほしい。



→<船木りんご果樹課長>

昨年もこの会議の席で同様の指摘があったが、当方ではガス障害であると判断し、箱にガスを吸着するカルシウム剤を入れるように指導している。

→<丹代座長>

私の感覚では、昨年より障害は少ないと見ている。中生種の販売は到着後1ヶ月を目処に販売していただきたい。

→<太田理事長>

台湾側の業者からアイスボックスで出荷を求めるのも障害発生の一因になっている。ダンボールで出荷すると障害は発生しない。



【総合討議】

メインテーマ

- 最近の青森りんごの輸入販売動向と果物消費を取り巻く状況
- 青森りんごを拡大する方策について
- 有効な消費宣伝について

<新店得利水果行 鄒 志強>



りんごを販売しやすい環境におくためには、3点あると思う。一番目は品質。二番目は値段。三番目は宣伝になると思う。

日本産のりんごについて、一番目の品質については文句なしに高品質のりんごだ
と思う。炭酸ガス障害は無くはないが自分たちで吸収できる問題だと思っている。

価格は千差万別で市場で決められるので、ここで討論しても始まらないのでやめ
る。三番目に一番大事になるのは宣伝です。ここで日本の皆さんに聞きたいのはア
メリカ産りんごと日本産りんごの違いはどこにあると考えていますか？

→<太田理事長>アメリカのりんごは未熟果、日本のりんごは完熟果。

アメリカ産との違いで、品質ではなくワックスをかけているかいないかを強調して安全性を強調するべきだと考えている。台湾の消費者は生活レベルが向上するにつれて、安全・安心なものを求めるようになってきている。りんごは皮に栄養があるので、日本のりんごはどうして皮まで食べれるのか、その辺を追求して宣伝してほしい。

→<太田理事長>そうゆう宣伝は出来ない。台湾の消費者が自分で判断してほしい。アメリカのりんごを攻撃するような宣伝をすれば、逆に日本のりんごがアメリカから攻撃されてしまう。

→<高澤事務局長>台湾のテレビCMでは、その点がわかるようになってきている。

→<加川副会長>りんごの皮に栄養成分のポリフェノールが含まれていると宣伝している。アメリカとの対比はやらない。来年の宣伝に今回の意見を加味した宣伝を考えていく。

<行政院農業委員会 国際處國際行銷科 蔡 淳瑩>



先日公務でオーストラリアに出張してピンクレディを見学してきた。台湾の市場はふじ主体だが、今後の品種構成がどうなっていくのか見守っている。

また、マーケットは伝統市場からスーパーマーケットに拡大してきているので、日本りんごの販売も新たな状況に直面していくことになると考えている。

最後に、今年は日本のりんごが豊作の年なので台湾で良い販売実績を上げれると思っている。

<チャレンジャー 岩淵聖>

広告宣伝について私のアイデアを申し上げる。ふじは青森県発祥のりんごだ。台湾のデパートを見て回るとチリ産ふじ、アメリカ産ふじなど沢山のふじがある。もう一度原点に立ち返ってふじの歴史を再認識して、どのようにしてふじがここまで成長してきたのか、そしてわれわれ生産者がここまでプライドを持って育ててきたことを広告宣伝に使っていただきたい。



<全青全青股份有限公司総経理 陳 清福>

台湾の景気はあまり良くない状況にある。こうした状況ではりんごの販売価格を高くしてはいけない。儲けを考えないで販売しなければならない。輸入するりんごのコストは決まっているので、コストを下げることは難しい。円安でもコストは下がらない。競合するアメリカ産は大玉で価格も前年の2割安で、青森りんごの販売を難しくしている。

また、宣伝は年間を通してやってほしい。ニュージーランドキウイフルーツは台湾に250万ドル使って宣伝している。いきなり青森にそれだけ要求するのは困難だとは思いますが、NZのキウイは台湾で9千万ドルから1億の売り上げがある。青森りんごも年間5千万ドルの売り上げがある。青森りんごも売り上げに応じた宣伝を考えていくべきだ。

→<成田農林水産部長>一定の予算の中で、いかに効果的な宣伝が出来るか、皆さんの意見をいただき考えていきたい。

<チャレンジャー吹田満>

自分は安全・安心なりんごを作ってきた。台湾の小学生にお願いして、青森りんごを丸かじりしてもらおうCMを作成して青森りんごは安全・安心と訴えてほしい。

→<加川副会長>現在台湾で放映しているテレビCMに、今の意見のことやりんごの皮に栄養があることも取り入れたので、是非CMで確認してほしい。少ない予算の中で効率の良い宣伝を行い3万トンの輸出を目指して、皆で頑張ろう。



<座長：丹代金一>

色々なご意見をいただきありがとうございました。予定した時間となりましたので、意見交換を閉じさせていただきます。皆さんご苦労様でした。

以上（座長：青森県りんご対策協議会・青森県りんご輸出協会専務理事 丹代金一
総合司会：青森県りんご輸出協会 事務局長 深澤 守）

台灣青森りんご友の会情報交換会出席者名簿

台灣側

公 司 名	参加者名	情報交換会出席	懇親会出席
行政院農業委員會 國際處國際行銷科	蔡 淳瑩 農産物輸出担当	○	欠
全青股份有限公司	陳 清福	○	○
全青股份有限公司	黃 蕙晶	○	○
馥農企業股份有限公司	李 高林	欠	欠
馥農企業股份有限公司	李 婉諭	欠	欠
台灣瓦克國際(股)公司	李 昭志	○	○
璉鎰有限公司	林 志信	○	
長龍農産有限公司	蔡 長龍	欠	欠
日豪貿易有限公司	黃 吉利	○	
日盈國際有限公司	黃 文博	○	
和新生鮮有限公司	張 家純	○	
和新生鮮有限公司	許 雅雲	○	
錦橋貿易有限公司	許 睿夸	欠	欠
禾榮産業股份有限公司	洪 大剛	○	○
台北市青果進口承銷協會 榮豐水果行	洪 嘉佑	○	○
全興青果行	陳 乾隆	○	○
新店得利水果行	鄒 志強	○	○
新店得利水果行	黃 靜慧	○	○
新店得利水果行		○	○
三貴水果行	周 三貴	○	○
三貴水果行	周 宏達	○	○
永好水果行	魏 肇佑	欠	欠
永好水果行	陳 年	○	○
明正水果行	許 傅明	欠	○
合 計		1 8 名	1 3 名

日本側

所 属	職 名	氏 名	懇親会出席
青森県農林水産部	部長	成田 博	○
青森県農林水産部りんご果樹課	課長	船木 一人	○
青森県農林水産部りんご果樹課	主幹	佐藤 新吾	
青森県国際戦略局国際経済課	課長	小山 宏	○
青森県国際戦略局国際経済課	総括主幹	長内 昌彦	
青森県国際戦略局国際経済課	主幹	藤森 洋貴	○
青森県国際戦略局国際経済課	主査	秋元 朋孝	
中南地域県民局	主幹	福田 典明	
全国農業協同組合青森県本部	りんご部長	黒滝 英樹	○
青森りんごT S導入協議会		三上 勝彦	○
チャレンジャー	りんご生産者	工藤 昌弘	
チャレンジャー	りんご生産者	岩淵 聖	
チャレンジャー	りんご生産者	赤石 淳市	
チャレンジャー	りんご生産者	前田 智之	
チャレンジャー	りんご生産者	小山内 和好	
チャレンジャー	りんご生産者	大湯 長	
チャレンジャー	りんご生産者	吹田 満	
チャレンジャー	りんご生産者	瀬戸 倫也	
J A 青森	りんご部長	雪田 真人	
J A つがるにしきた	本店園芸部長	須藤 貞夫	
J A 相馬村	主任	澤田 忠幸	
青森県りんご対策協議会	会長	阿保 直延	○
青森県りんご対策協議会	副会長	加川 雅人	○
青森県りんご対策協議会	専務理事	丹代 金一	○
青森県りんご対策協議会	事務局長	高澤 至	○
青森県りんご対策協議会	事務局	太田 優	○
青森県りんご対策協議会	ミスりんご	藤井 なつき	○他2名
青森県りんご輸出協会	理事長	太田 一民	○
青森県りんご輸出協会	会員	吉田 悦子	○
青森県りんご輸出協会	事務局長	深澤 守	○
合 計		30名	17名

通 訊 運 盈 商 事 社 長 鈴 木 明 達

出席者数 情報交換会 49名（通訳含む）
懇親会 31名（通訳・ミス3名含む）